

検索の豆知識

vol.20



展覧会情報を調べるには

「パウル・クレーに関する展覧会情報とカタログを探している」「京都国立博物館で開催された展覧会を知りたい」展覧会の名前やカタログといった展覧会情報はどのように探せばよいでしょうか。当センターの所蔵資料とデータベースを利用して調べてみましょう。

1 過去の展覧会情報を調べる

データベース

「近現代美術展覧会開催情報検索」(東京文化財研究所)

<http://archives.tobunken.go.jp/internet/exke/nsaku.aspx>

会場名/展覧会名/開催年/作家名から検索できます！

収録期間：1935年～2010年4月

『日本美術年鑑』(※)を元に、国内で開催された近現代美術の展覧会情報をまとめたデータベースです。展覧会の名称には、作家名によるものだけでなく、「20世紀の巨匠展」「印象派展」といった、時代やジャンルに焦点をあてたものがあります。このデータベースでは、このような複数作家の出展企画も、作家名から検索できるようになっています。

また、現存しないギャラリーによる数十年前の企画も調べることができます。

※『日本美術年鑑』とは

美術界の1年間の主なニュースを集めた年鑑。美術に関する新聞・雑誌記事や文献情報が紹介されています。展覧会に関する文献を確認してみましょう。

『日本美術年鑑』

東京国立文化財研究所美術部編

東京国立文化財研究所

所 在：普通架

参考資料

『日本の美術展覧会開催実績：1945～2005』

会場名 から調査できます！

収録期間：1945年8月～2005年12月

国内の美術館で開催された展覧会の会期や、企画した団体名などの情報を掲載しています。各美術館の展覧会の歴史が一目でわかり、さらにカタログの有無や形態も同時に調べられるのが特徴です。

『日本の美術展覧会開催実績：1945～2005』

中島理壽監修

国立新美術館

所 在：参考資料室

706.9
KO
1945-2005

2 開催中・開催予定の展覧会情報を調べる

データベース

「アートコモンズ」(国立新美術館)

<http://artcommons.nact.jp/>

展覧会名/会場名/会期/地域(都道府県別)/ジャンル から検索できます！

ギャラリーなどでの小規模な企画展情報も含まれています。このほか内容や入場料、交通案内など、展覧会へ出かける際に役立つ情報が紹介されています。

「美術館・アート情報 artscape」(大日本印刷株式会社)

<http://artscape.jp/>

地域(都道府県・東京23区別)

から検索できます！

複数館で開催される巡回展の会期・会場情報も確認できます。全国の美術館・博物館を地図や最寄り駅から検索でき

る「ミュージアムデータベース」もおすすめです。

3 展覧会のカタログをさがす

展覧会カタログには、作品の図版や論文、参考文献など研究に役立つ情報が多く含まれています。『展覧会カタログ総覧』を使って探してみましょう。

参考資料

『展覧会カタログ総覧』

人名/事項名(テーマ・作品名など)/主催者名 から調査できます！

収録期間：1880年(明治13年)～2007年

国内で発行された展覧会カタログの基本情報(書名、出版社名、刊行年など)を調べることができます。目次と索引を使ってテーマや作家名を確認し、一覧からカタログを特定します。後は蔵書検索システムOPACを使って当センターに所蔵されているか調べましょう。



703.1
NI
1

703.1
NI
2

『展覧会カタログ総覧』

日外アソシエーツ株式会社編集

日外アソシエーツ

所 在：参考資料室

おすすめ
レファレンスブック『新撰芸能人物事典：
明治～平成』

伝統芸能やタレント、音楽など特定のジャンルに絞った人物事典はよく目にしますが、多岐にわたる芸能分野を1冊で調べることができる人物事典は意外と少ないものです。

今回紹介する『新撰芸能人物事典』は明治から平成22年9月時点までの故人5,394人を収録。明治・昭和・平成とごく最近まで活躍していた人物まで調べることが可能です。

舞台や映画、ラジオ・テレビ等で評価が定まった人物に限定されていますが、俳優、女優のみならず、古典芸能からロックミュージシャン、コメディアン等、かつて活躍したさまざまな人物を調べることが出来ます。また伝記・評伝の情報も記載されているので、その人物の生き方・考え方などさらに深く知る手掛かりとなります。

さらにこの事典最大の特徴は、別名・グループ名でその人物を調べることが可能な点です。

「コンビ名やバンド名は知っているが個人名まではわからない」

「インターネットで検索しても情報量が少なく、よくわからなかった」

そんなとき本書を活用すれば、詳細かつ正確な情報を入手できるでしょう。

パラパラとめくるだけでも、思いがけない人物と出会える一冊です。研究やレポート執筆に、ぜひ役立ててください。

掲載内容

職業・肩書／専門／国籍／生年月日／没年月日／出生(出身)地／本名、旧姓(名)、別名、屋号／学歴／経歴／所属団体／叙勲／受賞歴／家族・親／伝記・評伝等の情報



770.33

SH

『新撰芸能人物事典：明治～平成』

日外アソシエーツ編集部編

日外アソシエーツ、紀伊國屋書店（発売）

所 在：参考資料室

日本史データベースの決定版
「国史大辞典」

芸術文化情報センターのデータベースに、本年度から「国史大辞典WEB」が導入されました。

もとは全15巻にわたる最大級の歴史百科辞典で、日本史の領域のみならず、考古・民俗・宗教・美術などの関連分野をあわせた5万4000語を網羅する、日本史研究の基礎資料といえるものです。また、国史大辞典の特徴として豊富な参考文献情報と、約3000名もの協力執筆者数があげられます。出版社は歴史関係に定評のある吉川弘文館です。

このように権威ある資料ですが、冊子版は大部すぎて使いづらい面もありました。その欠点をカバーしてくれるのが、今回のデータベース版といえるでしょう。見出しだけでなく、本文、執筆者、参考文献までもが、キーワード検索の対象となっているのが特徴です。検索対象に執筆者、参考文献を含むデータベースはめずらしく、自分の研究テーマに関する代表的な研究者、先行研究文献の情報を手軽に調べることができます。

このデータベースを使えば、歴史を調べる楽しみがますます湧いてくると思いますよ。



「国史大辞典WEB」

<http://kokushidaijiten.com/top/corpdisplay>

※同時アクセス一名まで

